

そえだがくしもでいっぽんやばた
副田楽下手一本矢旗太鼓踊り



副田楽下手一本矢旗太鼓踊り（そえだがくしもでいっぽんやばたたいこおどり）保存会は、昭和48年に旧入来町無形民俗文化財に指定。平成16年10月12日の市町村合併からは薩摩川内市無形民俗文化財に引続き指定され、毎年8月28日に近い日曜日に太鼓踊りを「元村諏訪神社（もとむらすわじんじゃ）」大祭日に神殿に奉納した後、町内各地の社寺等に奉納、披露する習わしで現在まで継承されている。

入来では別名「8月踊り」と呼ばれており、旧藩時代のご不落（ごふらく）祈願や、約400年前、「豊臣秀吉」公が率いた朝鮮出兵の士気を高める踊りとして、その家臣「島津義弘」公が県内に広めたとする説がある。また農民を門割（かどわり）制度により統治していた入来院氏が入来地域を領地とし、管理していた農作物に対する台風災害の恐れのある二十日前に稲作等の五穀豊穰と、無病息災を祈願した踊りとして太鼓踊りを奉納するよう、元村諏訪神社の隣の別当寺（べっとうじ）を入来郷祈願所として定め、奉納するよう義務付けたとされている。

また当該踊りの形態は農民姿を基本とし、鉦打ちは頂きに山鳥や雄鶏の尾羽、造花を飾り、色紙の紙垂（しで）を垂らした花笠を被り、太鼓打ちは馬のたてがみで出来た毛笠を被る。

矢旗は一本約3メートルの長竿で、竿頭に約1メートルの造花をのせ、その下から白紙の長い紙垂を数十本垂らした豪華なものである。その形状から一本矢旗、別名「そうめん矢旗」と呼ばれている。

【奉納・披露】

日程：毎年8月28日に近い日曜日

場所：元村諏訪神社、入来町内一円